

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>全教育活動をとおして、生徒・教職員がともに成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。</p> <p>1 学力充実と希望進路の実現 学科・類・類型の特色を活かし、創意工夫した教育活動を展開する中で学力の充実・向上と希望進路の実現をする。</p> <p>2 生徒指導の充実 道徳教育を推進する中で、一人一人が集団社会を構成する一員としての意識の醸成に努める。</p> <p>3 特別教育活動の充実 部活動・生徒会活動、ボランティア等の自主活動を活発にし、生徒の体力や情操を育む。</p> <p>4 開かれた学校づくり 保護者・地域・小中学校・関連諸機関との連携を大切にし、関係者評価を生かし信頼される学校づくりに努める。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「アカデミックミネ」を実施し、校内コンテストの開催、資格取得の促進、キャリア教育の充実、地域と連携した職業教育の充実などの取組により、生徒の意識改革や意欲向上に繋がった。また、京都数学コンテストでの優秀賞受賞、「京のチカラ・明日のチカラ」での知事賞等の受賞など挑戦する意欲を喚起し、潜在力を発揮する生徒を育てることができた。 ○ 特別指導措置件数の減少、遅刻者の減少ができた。 ○ 学校全体に落ち着いた雰囲気が出てきた。 ○ 国公立4大合格者数は、延べ49名（実数46名）と過去最高となった。 ○ ホームページを充実し、年間4万件のアクセスを達成し、情報の積極的な発信ができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習時間の確保は生徒への動機付け、意欲とも関係しており、今後、授業改善やフロンティア校の取組の中で意識改革をより推進しなければならない。また、週末課題等の取り組みをより充実させ、家庭学習時間の確保を指導する必要がある。 ○ 交通マナーや社会的マナーの改善、身だしなみの向上は引き続き粘り強い指導が必要である。 ○ 進路希望実現に向けた校内の連携体制の一層の充実が必要である。 ○ 学校公開では地域住民・保護者に授業公開をしたが、参加者は非常に少なかった。年間の取組改善が必要である。 	<p>1 生徒の学力向上を目指す指導の充実 授業規律の徹底を図るとともに、家庭学習を充実させ、授業改善を推進する。</p> <p>2 学力向上フロンティア事業の推進 学力向上フロンティア校として、アカデミックミネの取組を継続し、生徒が様々なものに挑戦する意欲を高め、学習に対するモチベーションを高める。系統的な進路指導を進め生徒の職業観・勤労観を育成する。</p> <p>3 積極的な生徒指導の推進 人権意識の涵養を基軸にしながら、個々の生徒が社会規範・モラルを身につけるとともに、互いを思いやることのできる教育を重視する。（校則の遵守、身嗜みの向上、交通マナーや社会的マナーの改善を行う。）</p> <p>4 特別教育活動の充実 部活動やボランティア活動、生徒会活動の一層の活性化を図り、学習との両立指導を強化する。</p> <p>5 開かれた学校づくりの推進 ホームページや「峰高だより」の発行、峰高展や峰高祭などの行事により、保護者や地域への情報発信を行い、オープンキャンパスや出前授業などを通じ小中学校との連携を深める。</p> <p>6 地元産業界との連携の推進 「京都北部地域産業担い手育成事業」を活用し、地元産業界等との連携強化と、専門学科教育の充実・改善を進める。</p>

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	中間評価	成果と課題 今後の努力点
組織・運営	学校経営の重点を達成するため体制を充実する。	学力向上フロンティア事業の推進、道徳教育推進会議等の会議を充実させ、目標を見えやすくし連携する。	B	目標を明確にし活動・連携できるよう努力している。さらに今後の活動の中で、意識を高めてしていきたい。
事務部	耐震補強工事の円滑な推進	施工業者、教職員、地域との連携を密にし、安全の確保を行う。	C	目標及び方策に対する意識を高め努力したい。
	正確で迅速な事務処理の実施	予算執行の早期有効活用に努める。 ----- 適確で迅速な窓口業務、修学援助に努める。	C ----- C	
庶務部	P T A活動と学校教育活動との連携を推進する。	連絡文書を確実に保護者へ届けるため、保護者連絡用封筒の利用をすすめる。 ----- 総会（面談を含む）、学校祭、P T A事業などへの積極的参加を促す。	B ----- B	ほぼ例年通りの取組ができているように思います。メール配信は、今年度から初めての取組ですが、お知らせ等の情報が各分掌に十分にいきわたっていない。今後行き渡るようにしていきたい。
	校内活動等の情報発信を年間を通して行う。	峰山高校お知らせメールニュースの配信に努め、その利用をすすめる。	C	
教務部	学力向上に向けた取組を強化推進する。	学力向上フロンティア事業を実施し、生徒の学習意欲やチャレンジ精神を引き出す。教科指導力を高める研修体制を確立し、公開授業週間で積極的な交流を図る。家庭学習時間1時間未満の生徒を2割以下にする。	B ----- C ----- C	フロンティア事業の各種取組、第1回目の家庭学習時間調査では概ね良好な結果が得られた。引き続き事業を推進するとともに、授業を第一とした教科指導力向上の研修方法を工夫していきたい。
	積極的な広報活動と開かれた教育活動を展開する。	峰高ホームページを常時更新し、峰高の教育活動を積極的に広報する。小中学校へ「出前授業」を行い、地域の子ども達の教育に貢献する。	A ----- B	
生徒指導部	全教職員一致した生徒指導体制づくりをすすめる。	教職員への全教職員一致した生徒指導体制づくりの啓発 担任・教科担任を中心とした生徒指導体制づくりをすすめる。	C ----- C	1年生制服の担任検査、2年生の修学旅行前制服検査、頭髪全体検査の縮小など協力をしていただいているが、まだまだ指導体制ができているとは言えない。
	特別活動の充実	生徒会活動を充実させる。 クラブ活動を活性化させる。	B ----- C	
	広報、情報提供活動の充実	生徒活動の外部へ向けてのアピール活動、生徒への情報発信を充実させる。	B	
進路指導部	希望進路の実現	就職希望者全員を内定させ、フリーターをゼロにする。 ----- 国公立大合格者延べ50名を達成する。	C	3月より就職ガイダンスや一般常識の補習等など、就職内定に向けて計画的に取り組んだが、求人状況は厳しく、

	キャリア教育の推進	学年に応じた職業観・勤労観を育成する。進路だよりや卒業生の活用などを取組を通じて、生徒の進路意識の高揚に努める。	B C	大手企業を中心に一次不調となった。 (1次合格率75%) 進路だよりなど、進路意識を高める取組を強化する必要がある。
保健部	心身の健康な生活について考え、実践できる生徒を育てる。	定期健康診断の結果を基に、日常より自己の健康に意識を持たせ健康課題を改善できるように指導していく。 ----- 基本的な生活習慣を確立させていく。	B ----- B	定期健康診断における健診率は、100%に近いが、精検等の受診率が50%にも達していない。また、保健室への来室状況も全生徒の3割5分程度あり今後増える可能性もあるので、留意する必要がある。 ----- ゴミをなくそう月間は、全学年ともしっかりと行えたが、校内安全点検の取り組みが全くできていないので、今後の課題である。
	安全な生活や環境に配慮できる生徒を育てる。	保健委員会の生徒を中心に「ゴミをなくそう月間」の取り組みを進める ----- 保健委員会の生徒を中心に「校内安全点検」の取り組みを進める。	A ----- C	
図書情報部	生徒に愛される魅力ある図書館作りを取組み、読書活動を推進する。	良質の図書を購入し、展示方法を工夫する。図書館便りや新着図書案内による広報活動を行う。多様なニーズに対応でき知的な刺激に充ち楽しく居心地の良い図書館を作る。「読書の時間」を全学年にわたり実施する。貸出図書を増やす。目標3冊/人・年	B ----- B	生徒の貸出冊数は昨年度を下回っているが目標は達成できそうである。狭いスペースで臨時図書館を開設しているが生徒の利用はまずまずである。図書館便り・新着図書案内の発行と季節の展示・特別展示も順調に行っている。 ----- 次年度の芸術鑑賞は古典芸能であるが現在資料を収集中である。視聴覚教室として地学室を整備し利用していた。学校祭準備用に6台のPCを図書館に設置し生徒の要望に応えた。耐震工事後の再開に向け図書館のレイアウトなど準備を進めたい。
	芸術鑑賞の実施 情報機器の利用環境の整備 峰高祭ステージ企画等の支援	11月に芸術鑑賞(音楽)を実施する。また次年度の芸術鑑賞(古典芸能)を計画する。 ----- 視聴覚教室に代わる環境を工夫することも含め、情報機器が利用しやすい環境を整え教育活動を広く支援する。	B ----- B	
教育相談部	心身に課題を抱える生徒の実態を明らかにし、指導・援助の体制を確立する。	学年部、保健部等の関係分掌と連携を図るとともに、定期的に教育相談会議を開く。	B	引き続き学年部、保健部等との連携を進めていきたい。
人権教育部	他分掌と連携を強め、自分を成長させ、他人を思いやり、よき集団や社会の形成者の育成を目指す。	他分掌の行事と同じスローガンを用いて行事を行う。	B	予定の行事を行ってきたているが、人権通信の発行もできておらず、「高き理想」のメッセージを十分に発信できているとは言えない。更に他分掌との連携を深め、同じメッセージを発信できればと思う。
	偏見や差別を見抜き、それらを克服しようとする力を養う。	人権LHR、講演会、人権通信などを企画する。	C	
第1学年部	規律ある生活を通して、互いを高め合う集団をつくる。	生徒一人一人や集団・クラスに応じた具体的目標を立て、随時点検し、その実現を援助する。	B	学年目標やクラス目標を明示し、学習集団の礎をつくる。
	学力の伸長と自ら学ぶ態度の育成を図り、進路目標実現のための基盤をつくる。	予習→授業→復習の学習サイクルを定着させ、面談活動や進路学習等を通して進路意識の昂揚を促し、家庭学習時間1時間未満の生徒ゼロを目指す。	B	1月の府実テストの偏差値アップに全力を上げる。
	けじめのある生活態度の育成と高き理想	学校祭、修学旅行や生徒会執行部の発		学校祭の取組や生徒会執行部の発

第2学年部	を求め合う集団をつくり、高校生活を充実させる。	足などを成功させる中で、HR と学年集団への帰属意識をさらに高め、自主自律の精神を育てる。また、特別指導件数や遅刻の少ない学年づくりに引き続き取り組むとともに、制服の着こなし指導を重点事項とする。	B	足などの成果の一方で、遅刻の増加や制服の着こなしなどに大きな課題がある。
	広く社会に目を向けさせる中で、具体的な進路目標を早期に明確化させ、進路実現に向けた学力の伸長と自己の向上への意欲を喚起させる。	進路体験を柱とする修学旅行を成功させ、学年後半には進路希望実現に向けた本格的なスタートを切らせる。	B	具体的方策の成功のための諸準備は整ったと思われる。
第3学年部	各自の第1希望進路の実現	自分の目指す進路が実現するように、計画的に指導し、努力をさせる。進路希望に応じた具体的な指導を積極的に実施し、国公立大50名合格、AO・推薦入試合格率の向上、就職内定率100%を目指す。	B C	面談等を利用して、丁寧な進路指導を実施した。目標達成のために今後、教科担当と連携をとって、より丁寧な指導に当たっていく。
	最上級生として、模範となる集団の形成	学校生活全般にわたって、安心して安全な落ち着いた毎日が送れる集団を作る。学校行事等において、模範となってルール・マナーが遵守でき、質の高い取組ができる集団を作る。	B B	問題行動等もなく、落ち着いて毎日の生活が送れている。今後も気を緩ませない。学校祭においては、それぞれが努力し、昨年よりも良い取り組みができた。
機械システム科・産業工学科機械系統	学習意欲の向上	学習する習慣づけをする。地元を含め専門の方の協力を得てものづくりに対する知識を高める。資格試験・検定に挑戦させるとともに合格率を高めていく。	B	インターンシップやクラフトマン講義・実習・企業工場見学等を通じてものづくりに対する意識の向上を図ることはできたが、学校での学習意欲を向上させるところまで十分つながっていない。
	進路希望の実現	1年生から専門学科の生徒として職業観・勤労観の育成をはかるとともに、関係諸機関と連携して進路を実現させていく。	B	企業との連携は強くなったが、進路の開拓において十分な成果になっていない。
繊維デザイン科・産業工学科デザイン系統	学習意欲の向上	産業工学科デザイン系統の学習内容の精選	B	育成プロジェクトに於いて、地域のデザイナーとの交流を深めると同時に、
	地域産業の担い手育成プロジェクトの活用	デザインから作品の製作・学校外の作品展に応募させるなど、ものづくりに対する意識・意欲を持たせる。地域産業界などとの連携強化により、生徒の職業観・勤労観の育成や、ものづくりへの意識の向上を図る。	A B	京都府ロボットポスターコンテストで最優秀賞・優秀賞と出品作品の入選もあり成果を得ることが出来た。また、防犯用イラストの制作など地域貢献も行うことができた。これらの成果を、生徒の意識の向上に繋げていきたい。
国語科	基本的な語彙力をつけ、論理的思考力や表現力の向上を図る。	小テストや課題提出等を計画的に行い、家庭学習の習慣づけをする。授業規律の確立を図る。	B B	授業は、ほぼ計画通りに進められている。家庭学習については、さらに指導を重ねていきたい。
地歴公民科	生涯学習の基礎となるべき、歴史・社会認識の定着を図る。	個々の生徒の日常的な学習活動を組み入れた評価を行うことによって、学習意欲の向	B	学習活動の中で小テストや週末課題などを実施している。

		上を目指す。		
数学科	家庭学習時間を増やし学習の定着を図る。 不認定生徒の減少を目指す。	平常の学習状況を把握するための学習点検を丁寧に行う。週末課題及び小テストの実施により学習の定着を図る。 学期毎の回復指導の実施により年度末での不認定生徒の減少に繋げる	B B	授業進度及び内容はほぼ予定通り進められている。どの講座も学力層が広く、一斉指導の難しさを益々感じているが粘り強く指導していきたい。
理科	科学的な思考力を育てる。	生徒の興味・関心を高める工夫をする。 実験・実習・演習を適切に行う。	B B	引き続き科学の教室への参加を通して、幅広く科学分野の研修を積む。
保健体育科	現代社会における様々な健康問題に関して、認識を深めさせるとともに、適切な意志決定や行動選択の大切さを理解させる。(保健)	日常生活における様々な健康問題に関心を持たせたり、新たな保健情報を適時に提起するなど、その指導方法を工夫する。	B	インターネットを活用し新たな保健情報を資料として提供するなどの工夫ができた。今後は、様々な健康課題に関する認識を深めさせる指導(レポートにまとめさせる等)ができるように努めたい。
	生涯を通じて体育・スポーツ活動に親しむことができる能力や態度を育てる。(体育)	体づくり運動を準備運動等に、積極的に取り入れ指導にあたる。	B	選択制授業の適切な実施は、ほぼ達成できている。今後は、様々な体づくり運動を適切に取り入れられるよう努めたい。
英語科	予習、授業、復習のサイクルを定着させることにより、学力の定着と向上を目指す。	予習を確認し、小テストを定期的に行い、課題を継続的に出すことによって、日常的学習を奨励し、発展的学習の機会も積極的に取り入れる。	B	予習、課題、小テストなど、学習量の確保に励んできたが、更に学習量を増やす工夫が必要である。
芸術科	芸術を愛好する心情を育てる。	基本的な学習態度を培うと共に、意欲的に表現や鑑賞の活動に取り組みさせる。 自己表現力を高め、完成度の高い演奏・作品作りを目指すことにより、峰高展の充実を図る。	B C	全体的に意欲的である。年度当初より落ち着いてきた。峰高展に向けてより完成度の高いものを目指したい。
家庭科	生活のしくみと現実を総合的にとらえ、考えていく姿勢を育てる。	授業規律を確立し、学ぶ環境を作る。 作品、プリント等を完全提出させ評価する。 教材内容の精選をする。	B	やや中だるみがみられるが、全体に落ち着いている。課題は特定の者が提出しきれていない。生活に対して考えていくきっかけを多く作っていきたい。
情報科	情報科の目標である情報活用力・情報モラル・及び情報についての科学的な理解の三つの柱をバランスよく指導する。	指示した実習課題を完全に提出させる。	B	授業の進度・実習課題の提出のどちらも計画通りに進んでいる。入門段階はほぼ終わったので、今後の授業では、教科の目標のうち「情報について科学的な理解」や「しくみ」に重点を移したい。
		情報モラルは授業全般をとおし繰り返し指導し、単なる知識で終わらせないよう努める。	B	
		情報について科学的な理解の指導を重視し、単なるソフトの使い方の練習に終わらないよう努める。	B	